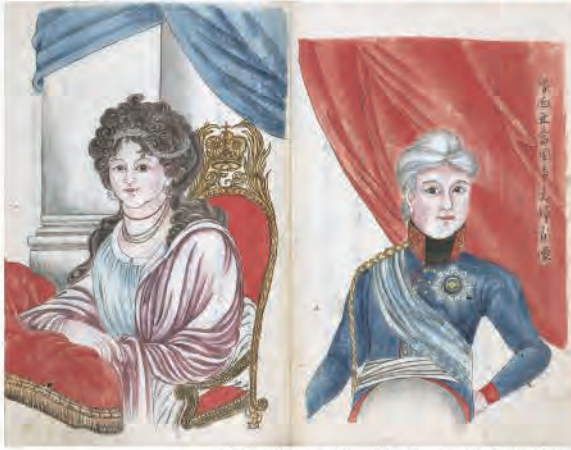


一海がまもり、海がつないだ日本一



環海異聞 大槻玄沢自筆 宮城県図書館蔵



近海航路并直径里数図 真田宝物館蔵

四方を海に囲まれた海国日本は、海が自然の要害となったことから、容易に異国船が接近できなかったこともあり、海外における戦争や紛争の影響を受けることなく「鎖国」政策による平和を享受することができました。しかし、18世紀に入ると、航海術や造船技術の発達により、異国船が日本近海に頻繁にその姿を現すようになります。海は異国と日本とを結ぶ路(みち)となったのです。そのような状況下において、日本と初の条約を締結したアメリカ東インド艦隊司令長官ペリーの来航より60年以上前の寛政3(1792)年、ロシアはラクスマンを派遣し江戸幕府へ開国通商を要求します。

幕府は、ラクスマンの来航に端を発し海岸防禦(海防)態勢が不備であることに危機感を募らせず。その後、文化元(1804)年のレザノフ来航や文化5(1808)年のフェートン号事件などの対外的危機が相次いだことから、全国的な海防態勢の強化を図りました。総延長約430キロの海岸線を有する神奈川県域においても、三浦半島を中心に多くの台場が築かれました。

そこでこの展覧会では、自然の要害として機能していた海が異国と日本とをつなぐ路へと、その役割が変容したことを踏まえつつ、アメリカに先立ち北から開国を求めたロシアとの関係を浮き彫りにするとともに、「鎖国」を維持するために構築された海防態勢を紹介することで、開国史の新たな視点を提供します。

北からの開国



魯西亜之図写 五様 蕉亭蔵 福山市歴史資料室蔵

【関連行事】

- 連続講座(全5回)「近世後期における「海」」14時~16時
 - 7月20日(土)「近世後期における北方へのまなざし」嶋村 元宏(当館主任学芸員)
 - 7月27日(土)「近世後期の漂流民・漂流記と蘭学者」松本 英治氏(開成高等学校教諭)
 - 8月3日(土)「近世後期における洋式軍事技術の導入と展開—高島流砲術の創始から用兵・造砲・軍制の改革へ—」梶 輝行氏(横浜薬科大学教授)
 - 8月24日(土)「近世後期の江戸海防備と忍藩・地域」澤村 怜薫氏(行田市立郷土博物館学芸員)
 - 8月31日(土)「近世後期の日露関係史とアイヌモシリー「蝦夷図」にみる認識と対抗—」吉村 智博氏(大阪人権博物館学芸員・国際日本文化研究センター客員准教授)
- 記念講演会 14時~16時
 - 8月4日(日)「18世紀後半から19世紀前半における日露関係の歴史的意義」藤田 寛氏(東京大学名誉教授・日本歴史学会会長)
- 教員向け講座「教科書だけでは学べない神奈川の歴史」7月30日(火) 10時~16時
- 子ども向け「展示を見て海を学ぼう」会期中「海の日イベント」7月15日(月・祝)
- 学芸員による展示解説
 - 7月13日(土)~19日(金)、25日(木)、31日(水)
 - 8月12日(月・祝)、18日(日)、24日(土)、30日(金)

露西亜人加見丹 個人蔵 福山市歴史資料室寄託



表:環海異聞 大槻玄沢自筆 宮城県図書館蔵
蝦夷国全図 林子平 東北大学附属図書館蔵

次回特別展のご紹介
時宗二相上人七百年御遠忌記念
真教と時衆
 10月5日(土)~11月10日(日)

みなとみらい線
 「馬車道駅」5番出口から徒歩1分
 市営地下鉄「関内駅」から徒歩5分
 JR「桜木町駅」「関内駅」から徒歩8分

※催し物の題名、日程等は変更することがあります。詳しくはホームページでご確認ください。